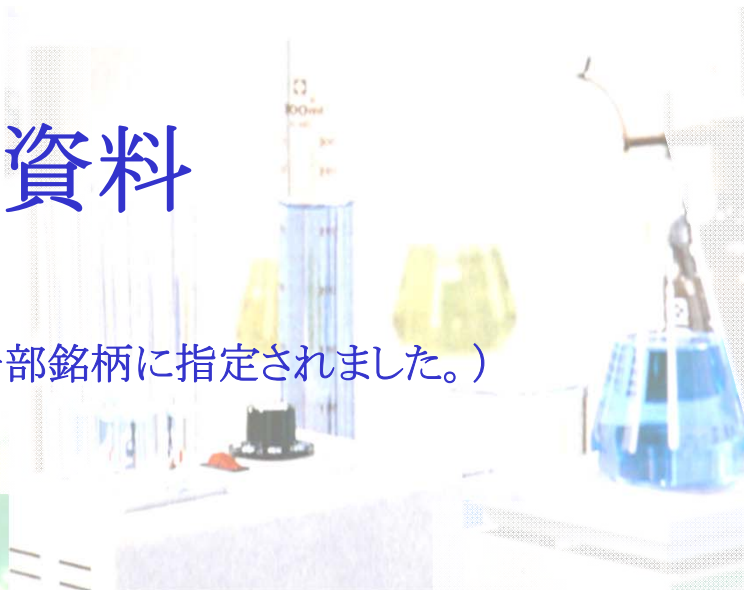
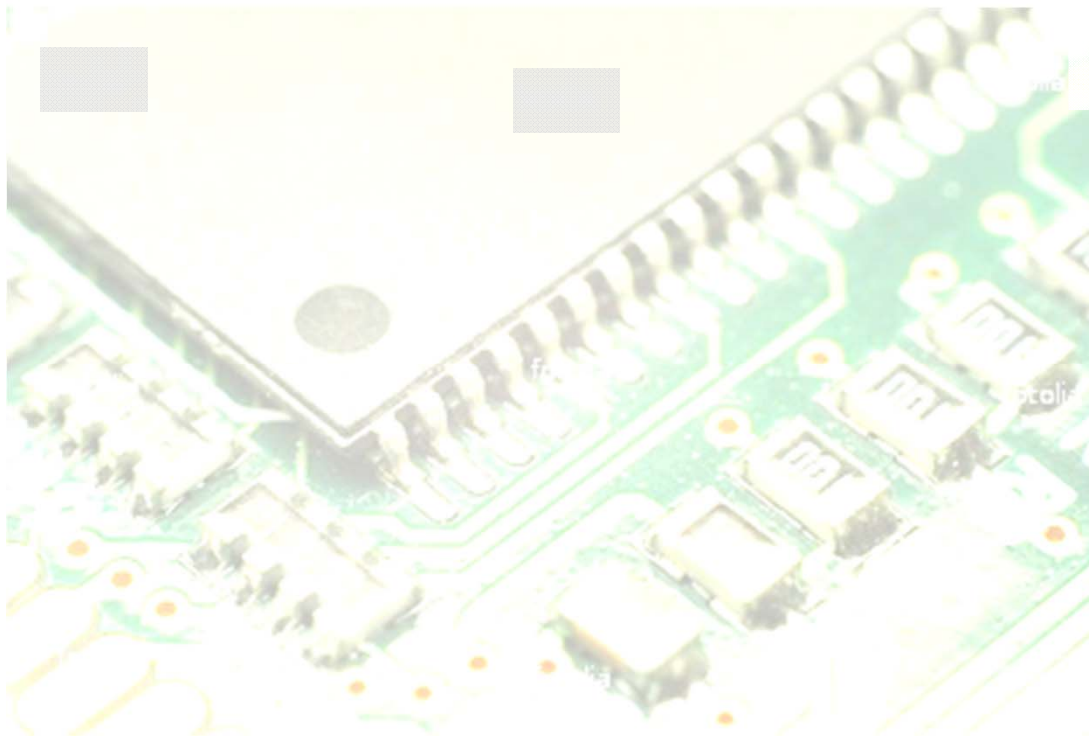


# 2018年3月期 決算説明会資料

(当社は、2018年3月16日をもって東京証券取引所市場第一部銘柄に指定されました。)



2018年6月4日 (大阪)

2018年6月5日 (東京)

石原ケミカル株式会社

Ishihara Chemical Company, Ltd.

(東証一部 4462)

## 本日の内容

1. 2018年3月期 決算総括 (代表取締役社長 時澤 元一)
2. 中期経営計画について (代表取締役社長 時澤 元一)
3. 次年度の見通し (代表取締役社長 時澤 元一)
4. 配当方針・内部留保の考え方 (代表取締役社長 時澤 元一)
5. セグメント別の営業状況・次期見通し  
地域別販売の状況 (専務取締役 酒井 保幸)

### 参 考 資 料

- ・2018年3月期決算短信(連結)

本資料のうち、業績予想等に記載されている各数値は、現在入手可能な情報による判断および仮定に基づき算出しており、判断や仮定に内在する不確定性および今後の事業運営や内外の状況変化により、実際の業績等が予想値と大きく異なる可能性があります。

# 1. 2018年3月期 決算総括

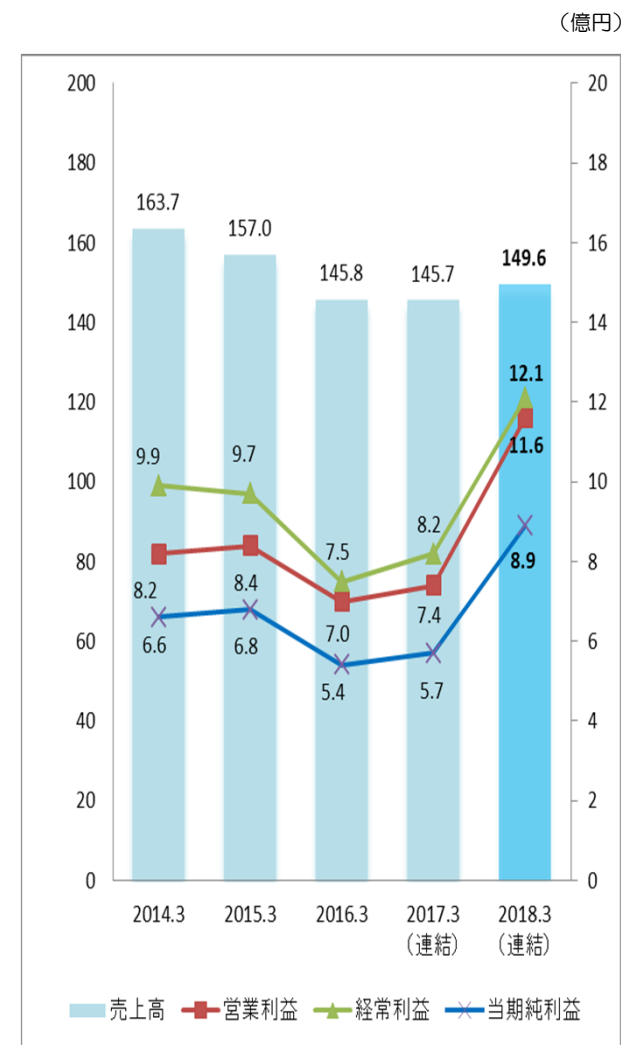


## 連結売上・連結利益について

	2018年3月期		前年		対前年		2018年3月期		
	実績	構成比	実績	構成比	増減率	増減額	公表値*	構成比	増減率
	対公表値	対公表値	対公表値	対公表値	対公表値	対公表値	対公表値	対公表値	対公表値
売上高	149.6	100%	145.7	100.0%	2.7%	3.9	148.8	100.0%	0.5%
売上原価	102.1	68.2%	104.0	71.4%	△ 1.8%	△ 1.9			
販管費	35.8	23.9%	34.2	23.5%	4.7%	1.6			
営業利益	11.6	7.8%	7.4	5.1%	55.2%	4.2	10.5	7.1%	10.5%
経常利益	12.1	8.1%	8.2	5.6%	48.3%	3.9	11.1	7.5%	9.0%
当期純利益	8.9	5.9%	5.7	3.9%	57.3%	3.2	8.1	5.4%	9.9%

(単位: 億円)

\* 2017年05月公表



### <売上高>

電子材料におけるNi超微粉の販売がなくなったものの、金属表面処理剤及び機器等、自動車用化学製品等、工業薬品セグメントが好調に推移したことにより、前年比2.7%の増収

### <営業利益>

高付加価値製品の販売増加により売上総利益が好転し、前年比55.2%の大幅増益

### <経常利益>

前年比48.3%の増益

### <当期純利益>

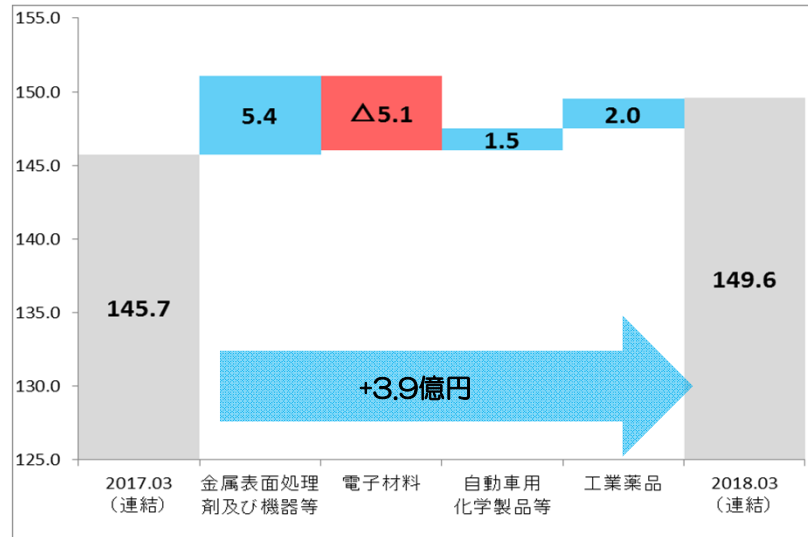
前年比57.3%の増益

• 設備投資：252百万円      減価償却費：375百万円      研究開発費：1,036百万円

## 連結売上高・連結営業利益の増減要因

### 売上高

(億円)



- **金属表面処理剤**：一般電子部品用めっき液の需要堅調、加えて、ウエハー用銅めっき液の採用あり
- **電子材料**：Ni粉の販売が終了
- **自動車用化学製品等**：引き続きエアコン洗浄剤の販売が好調

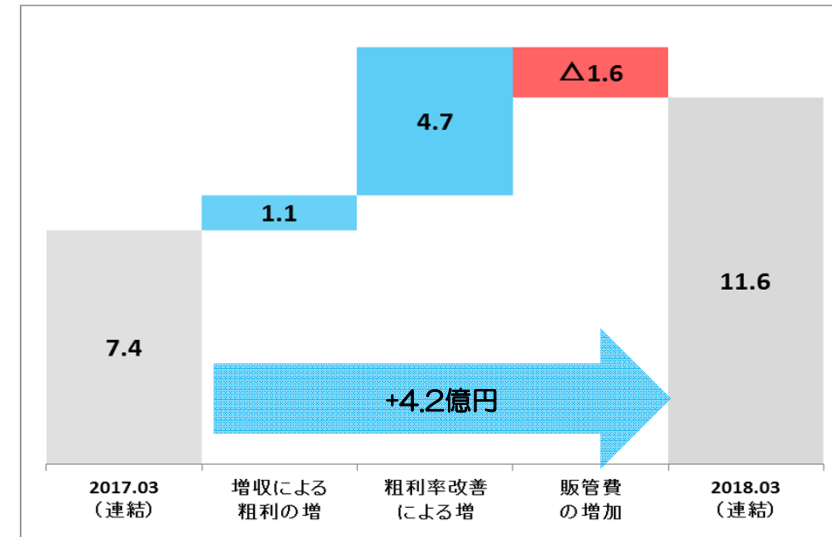
### 連結対象会社について

石原化美（上海）商貿有限公司（100%子会社）

- 資本金13,000,000RMB 社員数9名・めっき薬品、自動車用化学製品等の販売
- 経営成績（2017年1月～12月） 売上高：221百万円 営業利益：△60百万円

### 営業利益

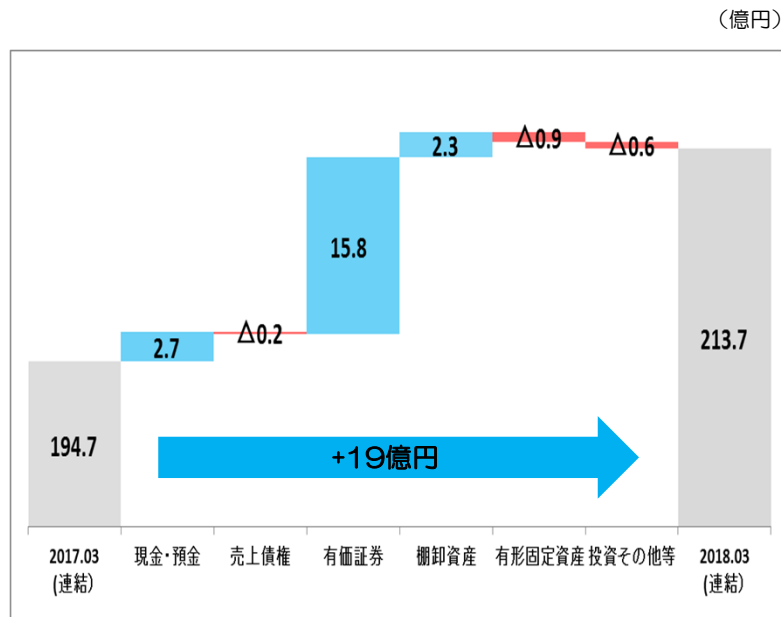
(億円)



- **売上総利益**：メーカー部門の販売構成が増及び金属表面処理剤の高付加価値製品の販売が増
- **販売管理費**：人件費1,919百万円（前年同期比3.8%増）、経費1,669百万円（前年同期比6.0%増）

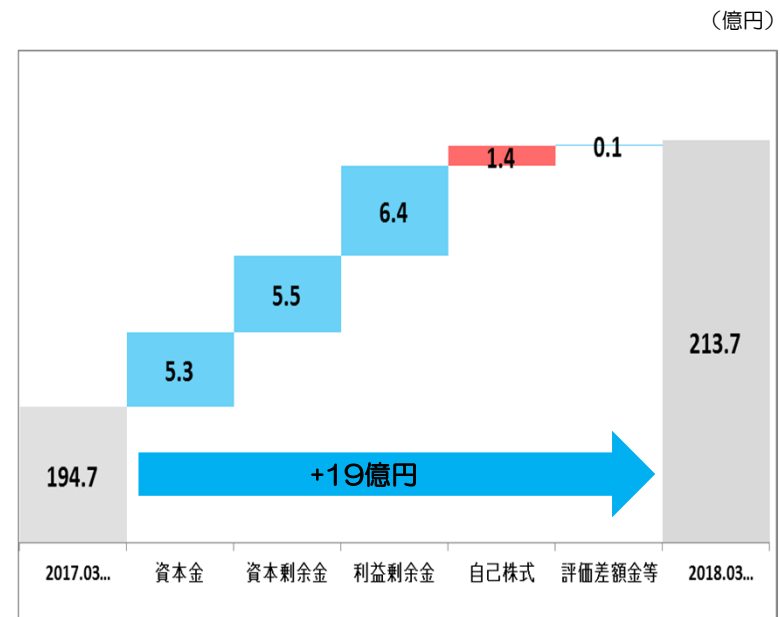
# 連結貸借対照表の増減要因

## 資産の部



- **有価証券**：余資運用目的の債券購入25.1億円、満期償還△9.0億円増

## 負債・純資産の部



- **資本金**：公募増資・オーバーアット外第三者割当による新株発行693,700株 10.7億円のうち資本金組入50% 5.3億円
- **資本剰余金**：新株発行50% 5.3億円及び自己株式譲渡益0.2億円
- **利益剰余金**：当期純利益9.0—期末・中間配当△2.5億円
- **自己株**：自己株処分106,300株による売出1.4億円

## 経営指標の推移

主要経営指標推移				2014/3	2015/3	2016/3	2017/3 (連結)	2018/3 (連結)
総資産	【Total Assets】	(百万円)		18,292	19,222	18,849	19,479	21,370
純資産	【Shareholders Equity】	(百万円)		14,621	15,395	15,486	15,893	17,778
1株当たり純資産	【BPS】	(円)		1,959.99	2,063.68	2,075.97	2,161.25	2,180.39
自己資本比率	【Equity Ratio】	(%)		79.9%	80.1%	82.2%	81.6%	83.2%
自己資本利益率	【Return on Equity】	(%)		4.7%	4.6%	3.5%	3.6%	5.3%
当期純利益	【Net Income】	(百万円)		688	685	542	570	898
1株当たり 当期純利益	【EPS】	(円)		89.64	91.84	72.69	76.97	114.82
一株当たり配当額	(年間)	(円)		30.00	30.00	32.00	32.00	42.00
								記念配当 10円含む

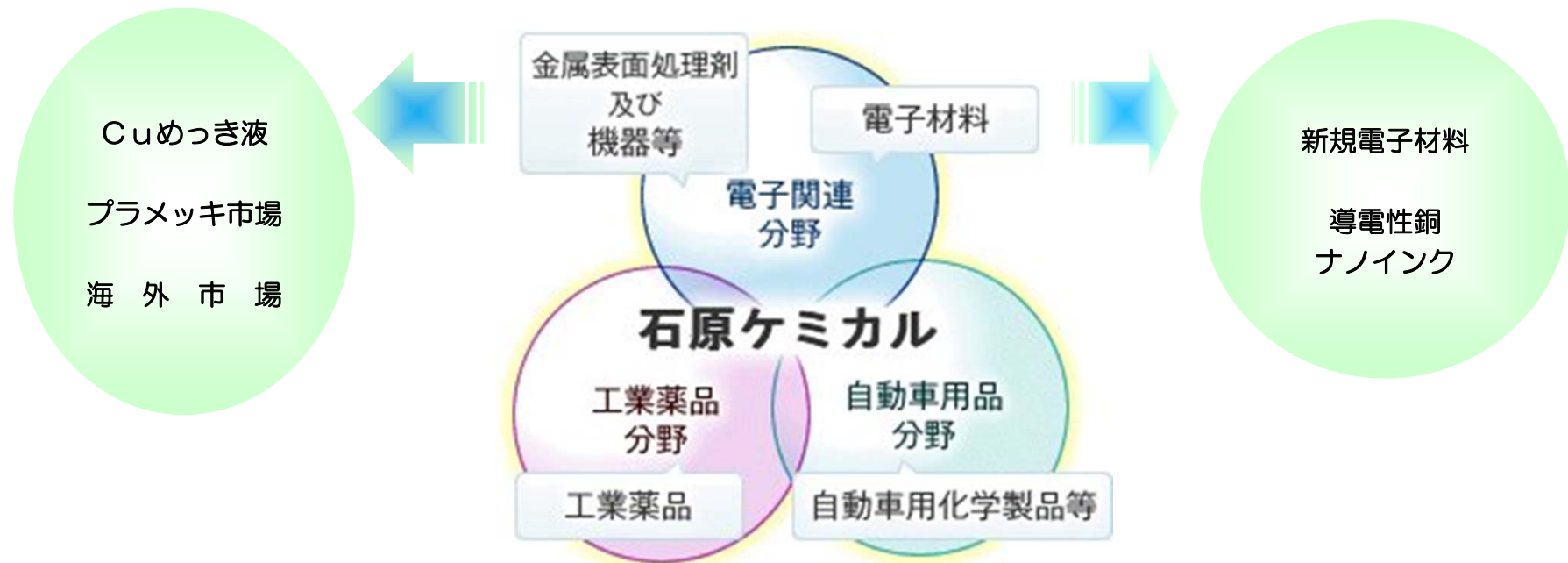
## 2. 2018年度(ローリング)中期経営計画



### 中期経営方針(会社が目指すビジョン)

#### 「成長路線の創造」

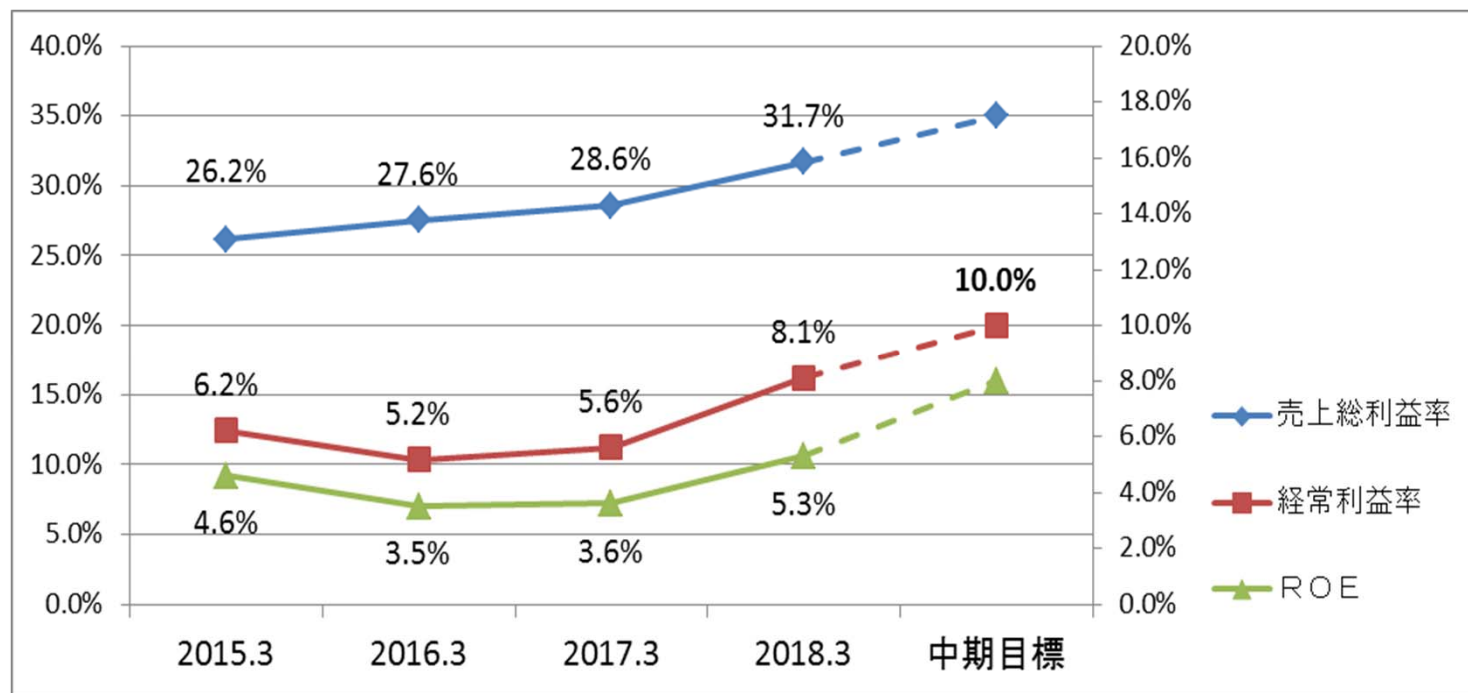
自己開発、商品開発、市場開発の「三つの開発」を企業理念とし、ニッチ市場といわれる事業分野で高い市場占有率を維持し、基幹となる三つの分野で四つの事業を展開することを基本とし、世界に通用する製品、技術、サービスを創造駆使し、グローバル化に対応する企業をめざし、更なる成長をはかる。





## 目標とする経営指標

- ① 売上総利益率30%以上を目指します。
- ② 経常利益率10%以上を目指します。
- ③ 利益額の伸長により、ROE(自己資本利益率)の向上をはかります。





## ・金属表面处理剂

鉛フリーめっき液

中性錫めっき液

無電解錫めっき液

ウエハバンプ用めっき液

ウエハ用銅めっき液

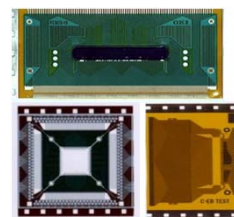
スマートフォンやタブレット端末などに  
使用される電子部品を基板などに接合  
するための表面处理剂(めっき液)



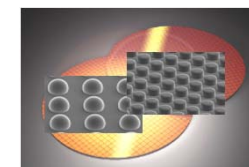
IC



チップ



TAB/COF



ウエハバンプ

## ・化成処理液自動管理装置

プリント基板等の製造工程中の処理液の有効成分の測定、不足成分の補給を自動的に行い濃度を一定に保つ機器



## 機能材料加工品

マシナブルセラミックス  
エンジニアリングプラスチック

半導体製造装置等の部品や治具の  
需要に対応した精密加工ができる  
セラミックス、高機能樹脂



エアコン洗浄剤  
コーティング剤  
自動車塗装用補修剤  
整備用ケミカル

カーディーラー、SS、自動車板金・  
補修工場、自動車整備工場などで使用  
され、カーライフをサポートする自動  
車用ケミカル品



基礎化学品及び金属塩類

鉄鋼表面処理薬品

触媒

水処理剤、ガス処理薬品（悪臭対策）

主に仕入販売を行う商社的営業展開により、顧客ニーズを的確に捉え、生産性向上、コストダウン、環境対策などメーカーと顧客とのコーディネート的役割を果たす

## 中期経営戦略（ビジョンを実現するための基本戦略）

### 重点テーマ

- (1) 第五の事業の柱として、導電性銅ナノインク等金属ナノ粒子の新規電子材料の事業化を加速し、先端電子材料への市場参入、市場拡大をはかります。
- (2) 回路形成用銅めっき液等の付加価値の高い製品を市場投入し市場拡大していくとともに、プラスチックめっき市場への参入をはかることにより、高付加価値製品の売上を伸ばし、売上総利益の増加をはかります。
- (3) 中国現地法人の早期黒字化を促進するとともに、その他の海外拠点の拡充をはかって、グローバル化による事業の海外展開に対応いたします。



# <電子関連分野> 電子材料セグメント

## 次世代電子回路基板への適用が期待される 導電性銅ナノインクを開発

銅ナノインクに注目して研究開発した理由は・・・

- ◎ 銅は導電性がよく配線材料に適している
- ◎ 銅はマイグレーションしにくい  
(電界の影響で金属成分が非金属媒体の上や中を横切って移動する現象)
- ◎ 銅は資源的に豊富である など

さらに

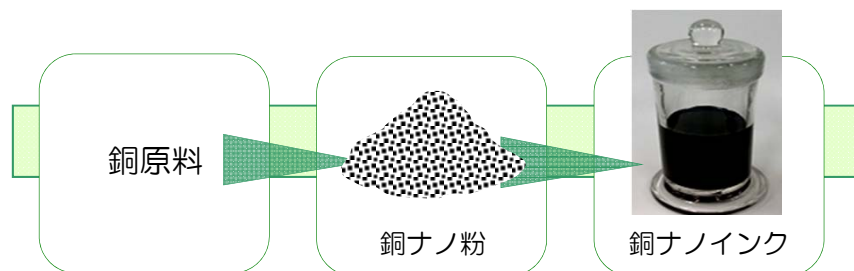
インクジェットやグラビアオフセットなどの  
印刷法による回路形成を実用化すると

プロセスの簡略化による  
コストダウン

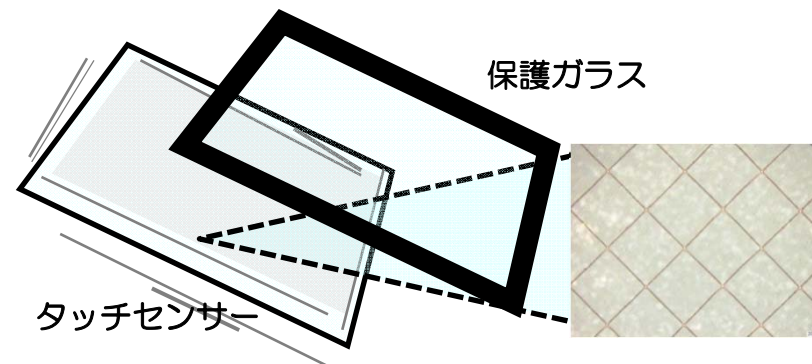
少量多品種への対応

環境にやさしい  
(廃液・廃棄物が少ない)

石原ケミカルでは銅ナノ粉からインク化まで  
自社で一貫して開発を進めています



ポリイミド基板上に導電性銅ナノインクを用いて形成した回路



PET基板上に導電性銅ナノインクを用いて形成した  
銅メッシュパターン (検討中)

様々なアプリケーションにおいて  
配線や電極として利用が期待されています

### 想定されるアプリケーション



タッチパネル



LED



太陽電池



FPC



RFID



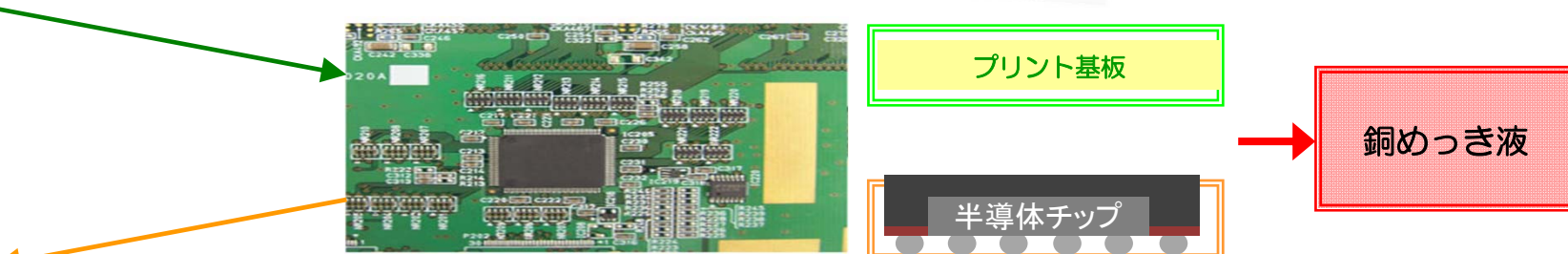
## <電子関連分野> 金属表面処理剤セグメント

(めっき液： 電子部品や半導体を電気回路に接続（搭載）する目的に使用)

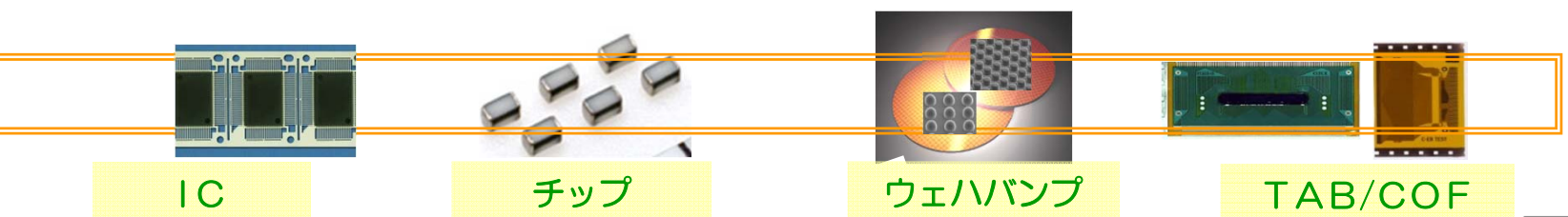
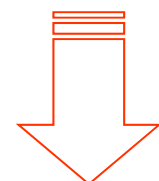
電子製品



基板



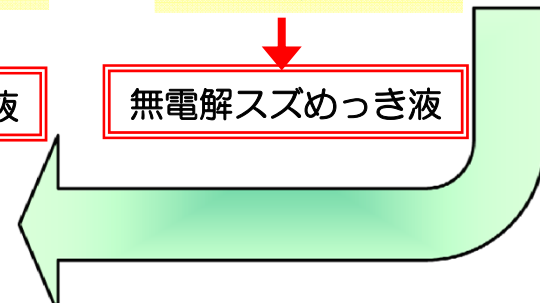
電子部品



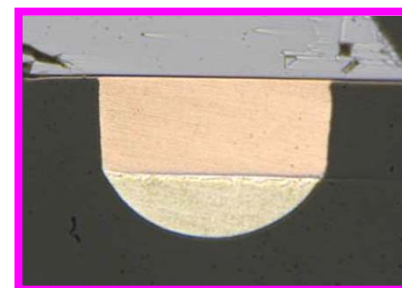
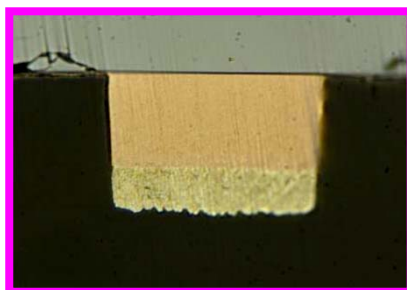
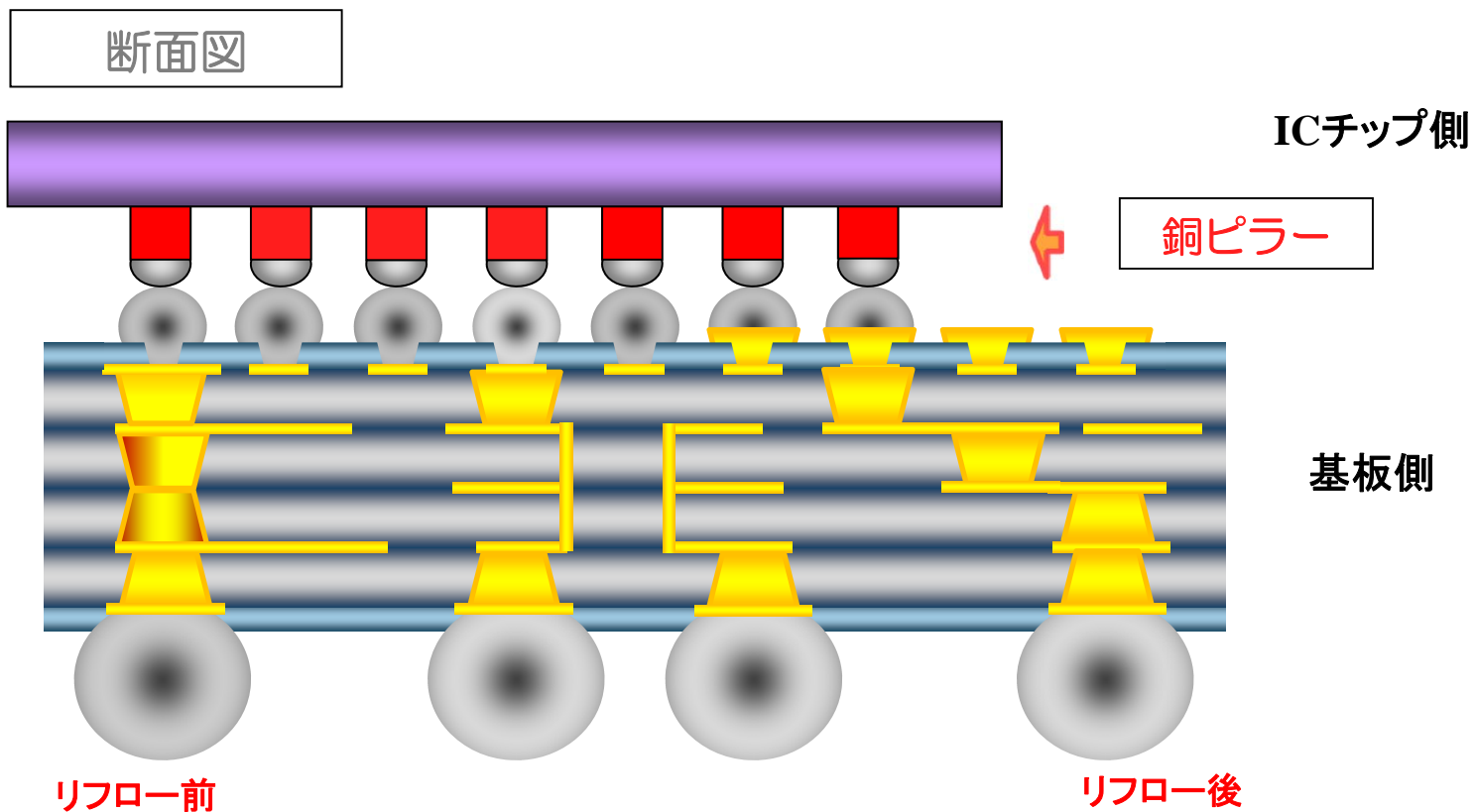
めっき液



- (1) 回路形成用銅めっき液の市場拡大
- (2) プラスチックめっき市場への参入
- (3) 石原化美（上海）商貿有限公司の早期黒字化



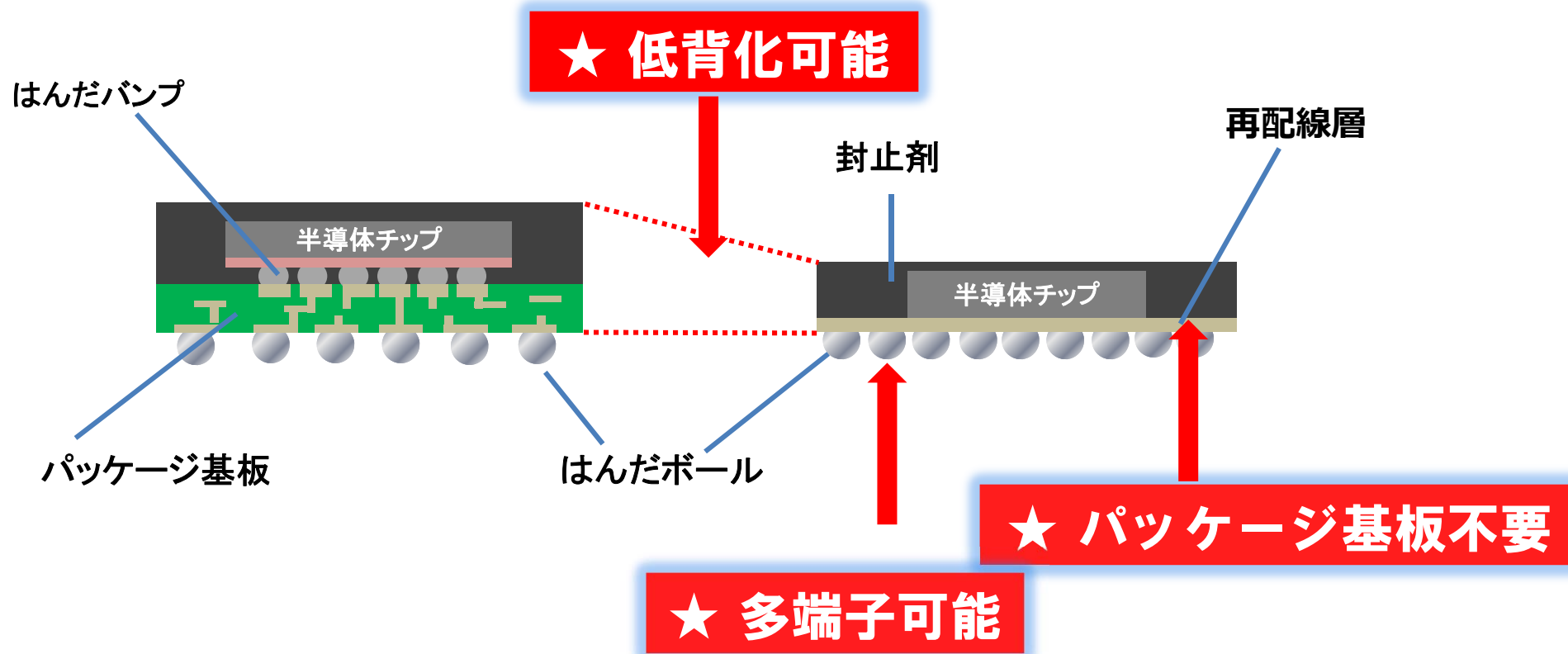
# 《銅ピラー技術》



# 《FOWLP(ファンアウト)技術》

従来パッケージ

FOパッケージ



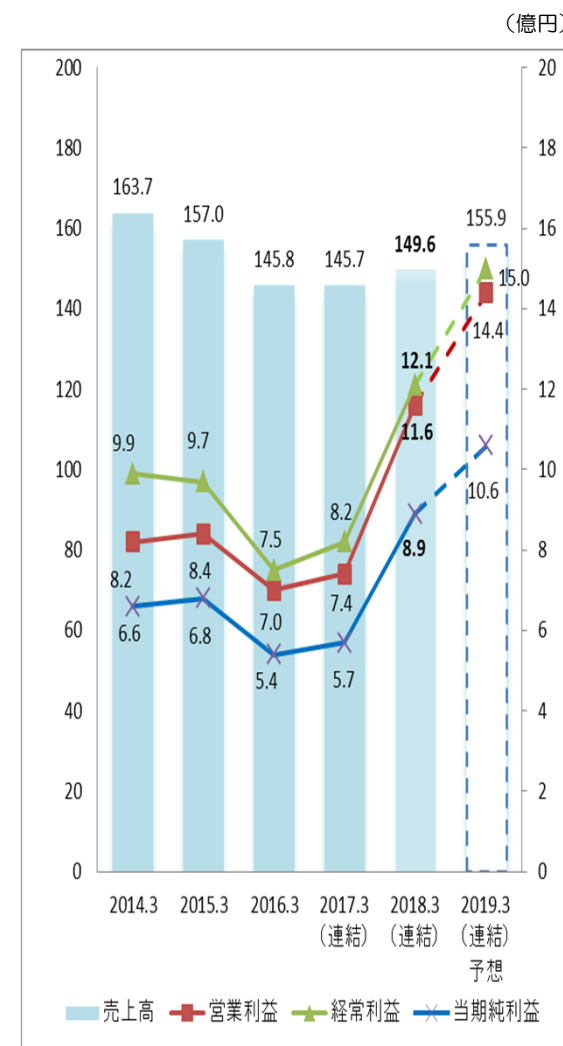
### 3. 次期(2019年3月期)の見通し



(2018年4月1日~2019年3月31日)

	計画(2019年3月期)			前年			年間 増減率	年間 増減額
	上期	下期	年間	上期	下期	年間		
売上高	78.6	77.3	155.9	75.7	73.9	149.6	4.2%	6.3
営業利益	7.9	6.5	14.4	6.6	4.9	11.6	24.1%	2.8
経常利益	8.2	6.8	15.0	6.9	5.1	12.1	24.0%	2.9
当期純利益	5.9	4.7	10.6	4.9	4.0	8.9	19.1%	1.7
1株当たり当期純利益	72.36円		130.00円	65.99円		114.82円		
1株当たり配当額	18.00円		36.00円	16.00円		42.00円		

- 設備投資 : 2,393百万円
- 減価償却費 : 430百万円
- 研究開発費 : 1,106百万円



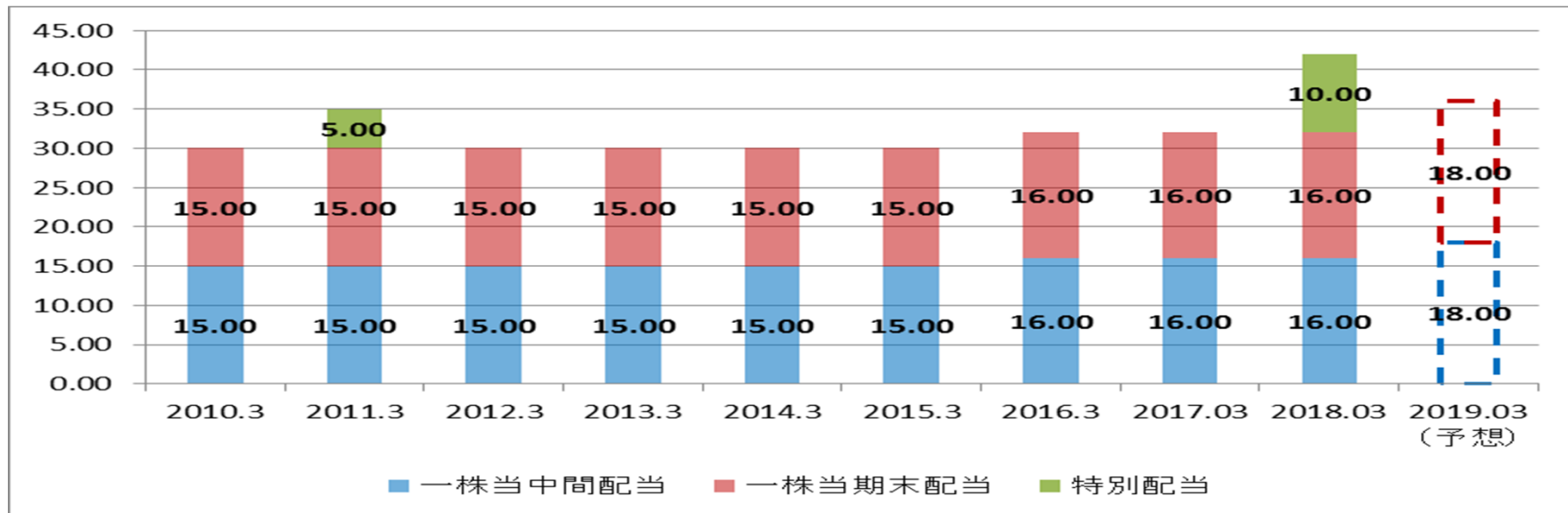
## 4. 株主還元・内部留保の考え方



### 株主還元の基本方針

業績に裏付けられた安定的で継続的な配当を行うことを基本としつつ、業績に応じた増配を検討するなど弾力的な還元策をはかっていく方針であります。配当に加えて自己株式取得も機動的に組み合わせて行うことにより、実質的な株主還元の一層の強化をはかります。

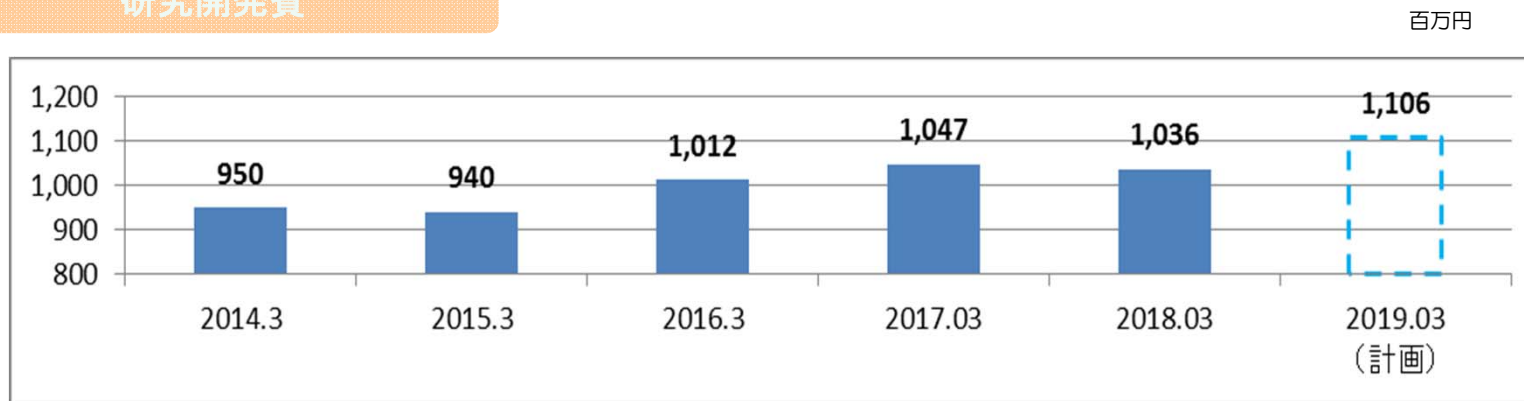
### 配当の推移



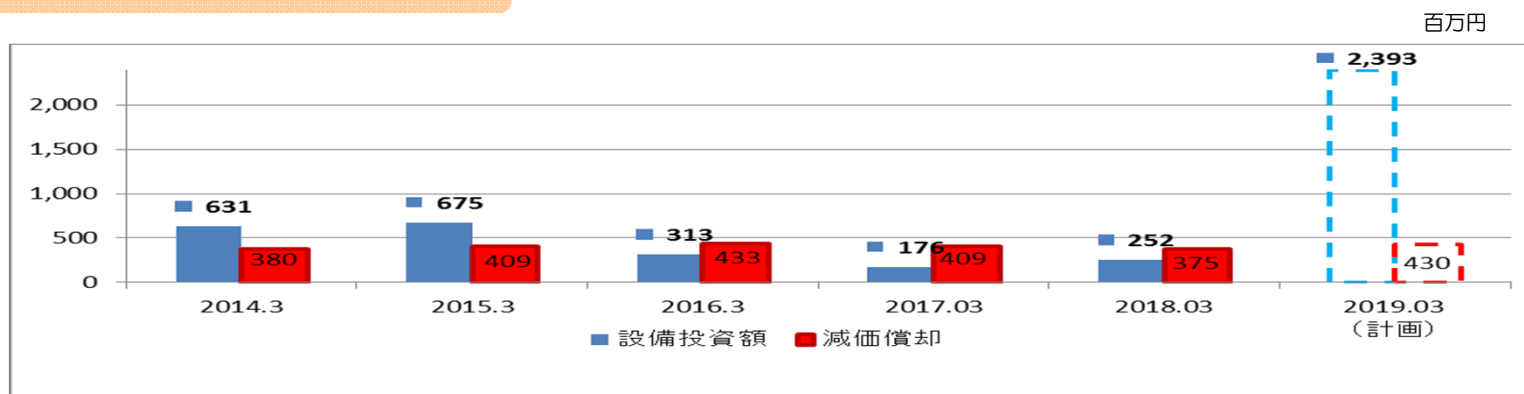
## 内部留保の考え方

健全な経営基盤を維持するため内部留保の充実をはかるとともに、内部留保資金の活用については、研究開発や新事業、新技術開発などM&A投資を含め将来の企業価値を高めるための投資に優先して充当してまいります。

### 研究開発費



### 設備投資額

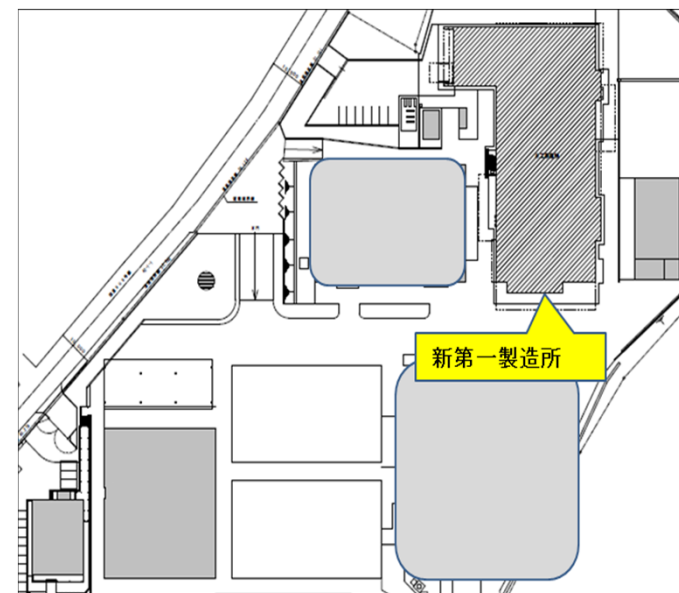


## 今後の成長を見据えた設備投資

半導体等の電子部品関連市場に対応したよりクリーンな生産環境を実現すること及び当社の自動車用化学製品等の安定供給体制を維持することを目的とした当社滋賀工場第一製造所の建替並びに拡大が見込まれる銅ピラー技術やファンアウト技術に対応しためっき液の増産設備であります。

滋賀工場第一製造所・  
めっき液増産設備  
総投資額 18億4千万円  
(H30年度計画ベース)

内部留保金を充当

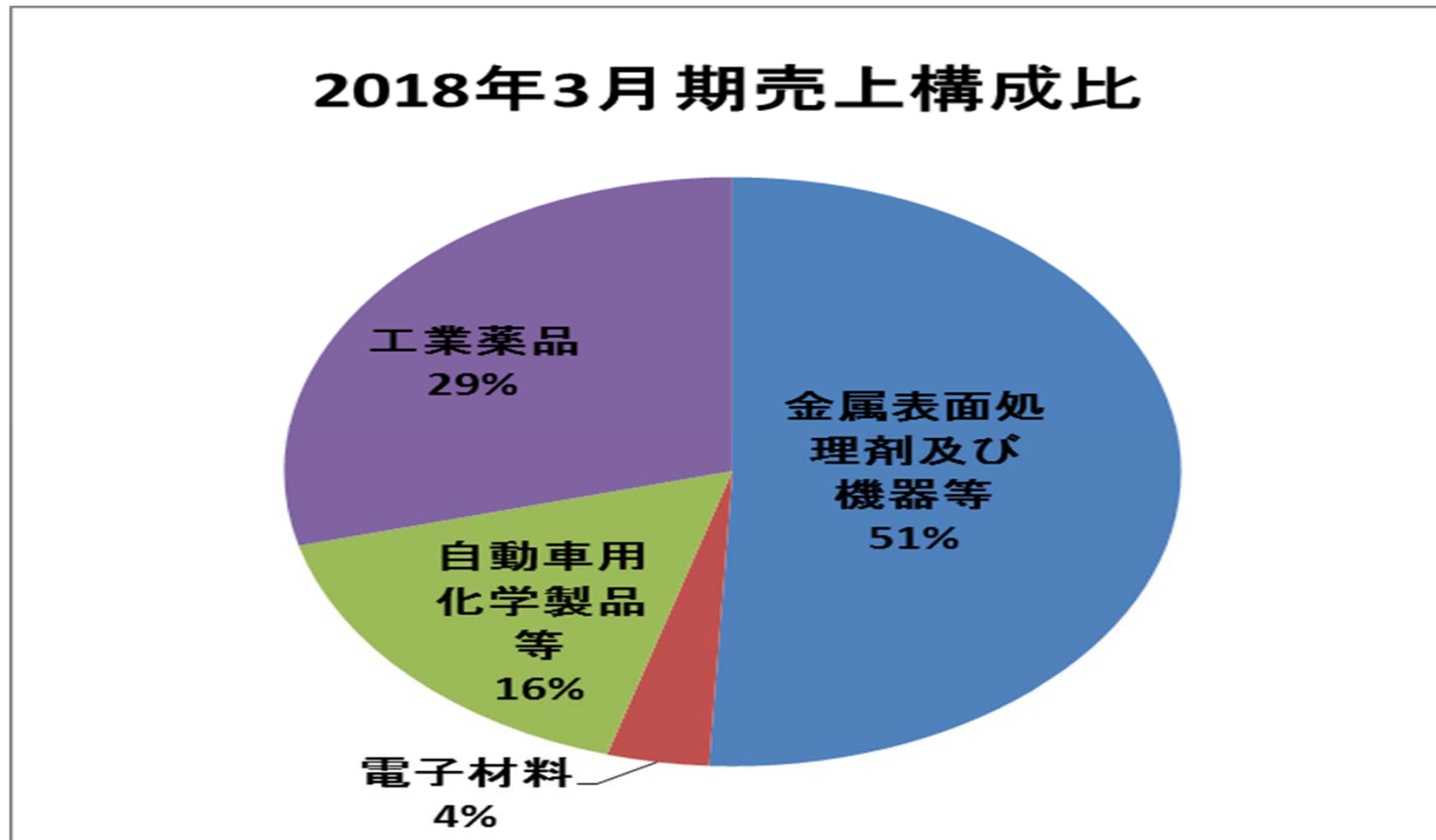




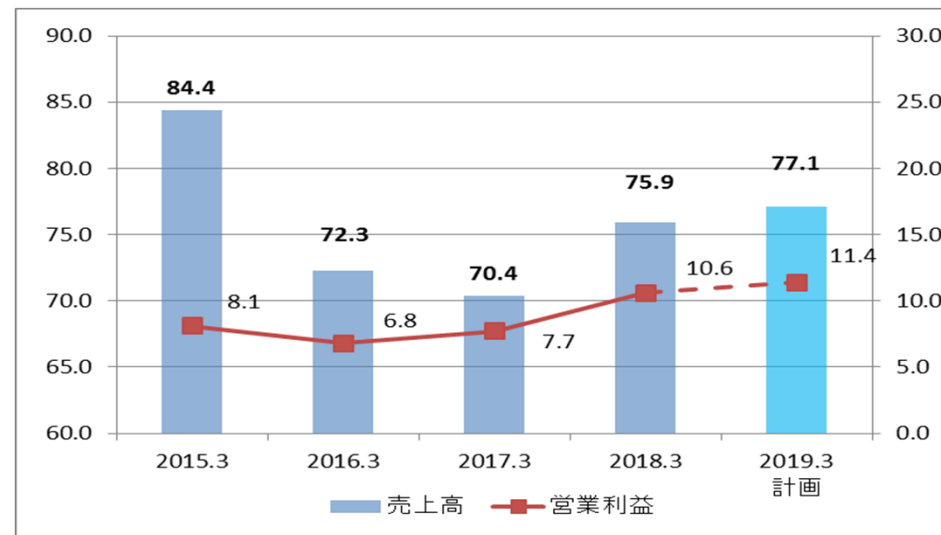
## 5. セグメント別営業の状況・次期見通し



### セグメント売上構成



金属表面処理剤及び機器等				(単位:億円)	
	2018年3月期	前年		2019年3月期	
	(実績)	(実績)	前年比	(計画)	前年比
売上高	75.9	70.4	107.8%	77.1	101.6%
営業利益	10.6	7.7	137.7%	11.4	107.5%



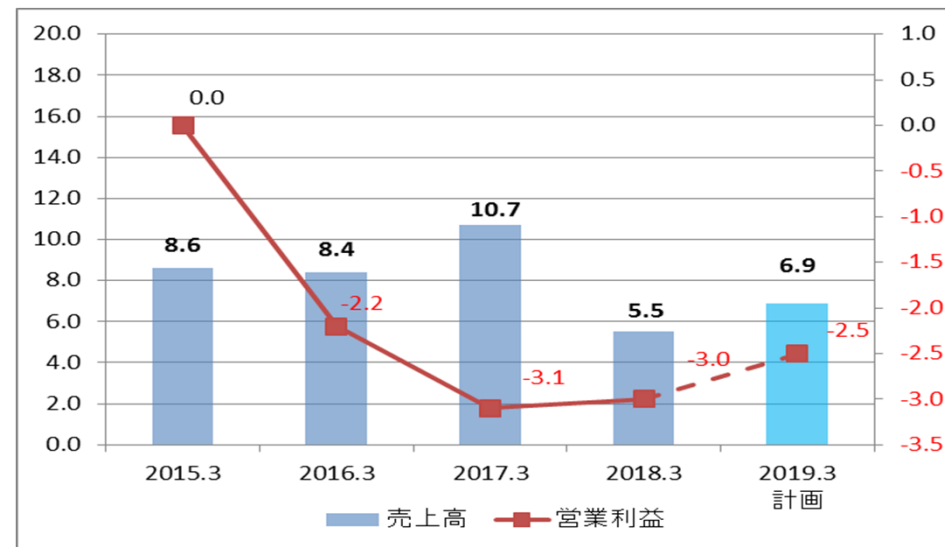
#### <市場環境：電子部品業界>

- ・国内市場は、前期末より底打ち感あり、車載及び次世代情報通信システム関連の生産動向が堅調
- ・海外市場は、ファンアウト技術や銅ピラー化が浸透
- ・第4四半期以降、ハイエンドスマートフォン関連市場において一時的な在庫調整

#### <販売の状況>

- ・一般電子部品用めっき液及び液晶ドライバー用無電解めっき液が好調
- ・ウエハー用銅めっきも好調
- ・ウエハー用バンプめっき液は前年割れ
- ・機器等の管理装置及び試薬は大口需要があり、好調

電子材料	(単位:億円)			(単位:億円)	
	2018年3月期 (実績)	前年	前年比	2019年3月期 (計画)	前年比
売上高	5.5	10.7	51.4%	6.9	125.5%
営業利益	△ 3.0	△ 3.1	-	△ 2.5	-



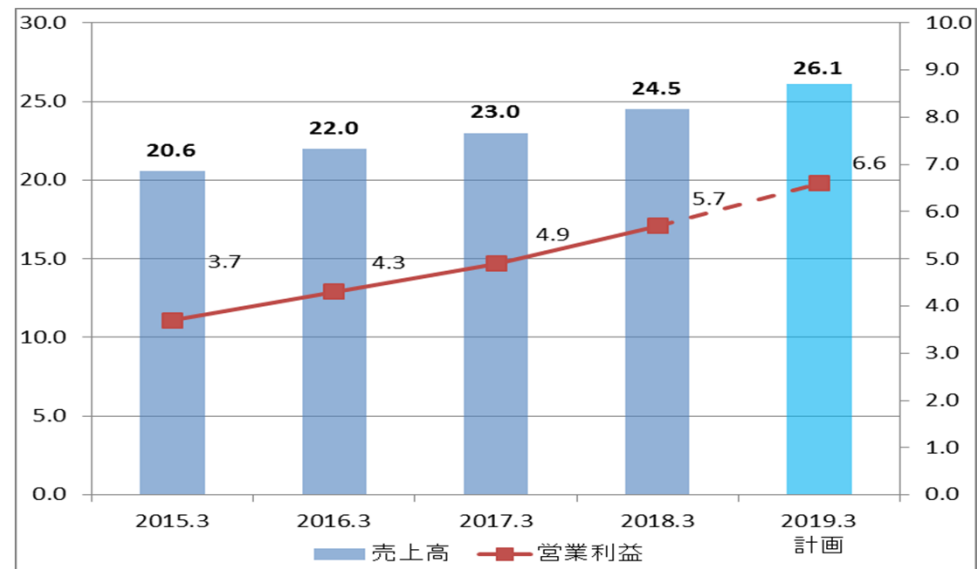
#### <市場環境・販売状況>

- ・上期は有機EL製造装置向け加工部品が好調
- ・下期以降はハイエンドスマートフォンの販売不振により、有機EL製造装置用加工部品が低迷
- ・セラミック加工品の需要が期末にかけ伸張

#### <セグメント損益>

- ・当期よりNi粉の販売が、需要先の購買政策の変更によりなくなり、売上高は前年を大きく下回る
- ・新規電子材料の開発費及び工場費用を先行して負担していることもあり、大幅な営業赤字

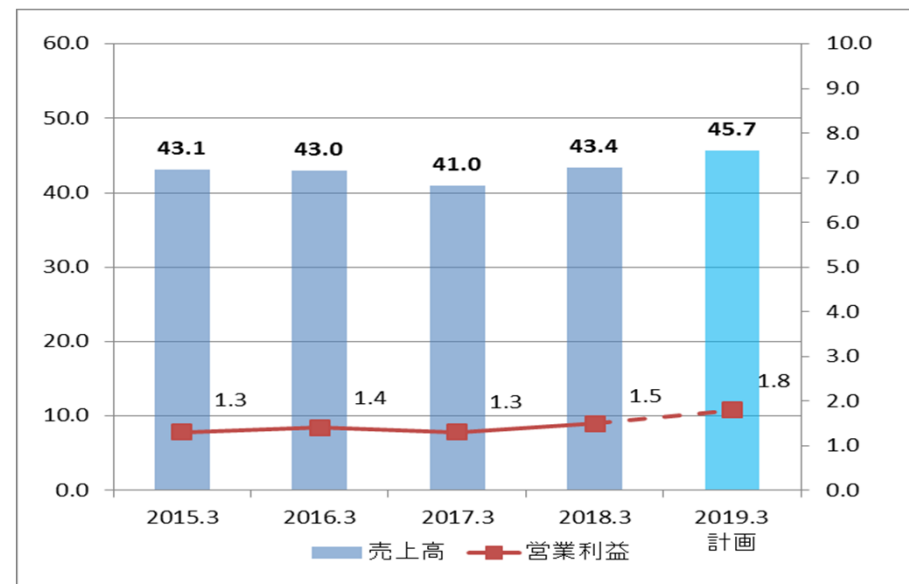
自動車用化学製品等		(単位:億円)			
		2018年3月期 (実績)	前年	前年比	2019年3月期 (計画)
売上高	24.5	23.0	106.5%	26.1	106.5%
営業利益	5.7	4.9	116.3%	6.6	115.8%



### <市場環境・販売状況>

- ・自動車用エアコン・フィルターの定期交換に合わせ、エアコン洗浄を同時に施工するビジネスを提案し、新規に取り組むカーディーラーが増加
- ・エアコン洗浄剤が引き続き好調

工業薬品	(単位:億円)				
	2018年3月期 (実績)	前年	前年比	2019年3月期 (計画)	前年比
売上高	43.4	41.4	104.8%	45.7	105.3%
営業利益	1.5	1.3	115.4%	1.8	120.0%



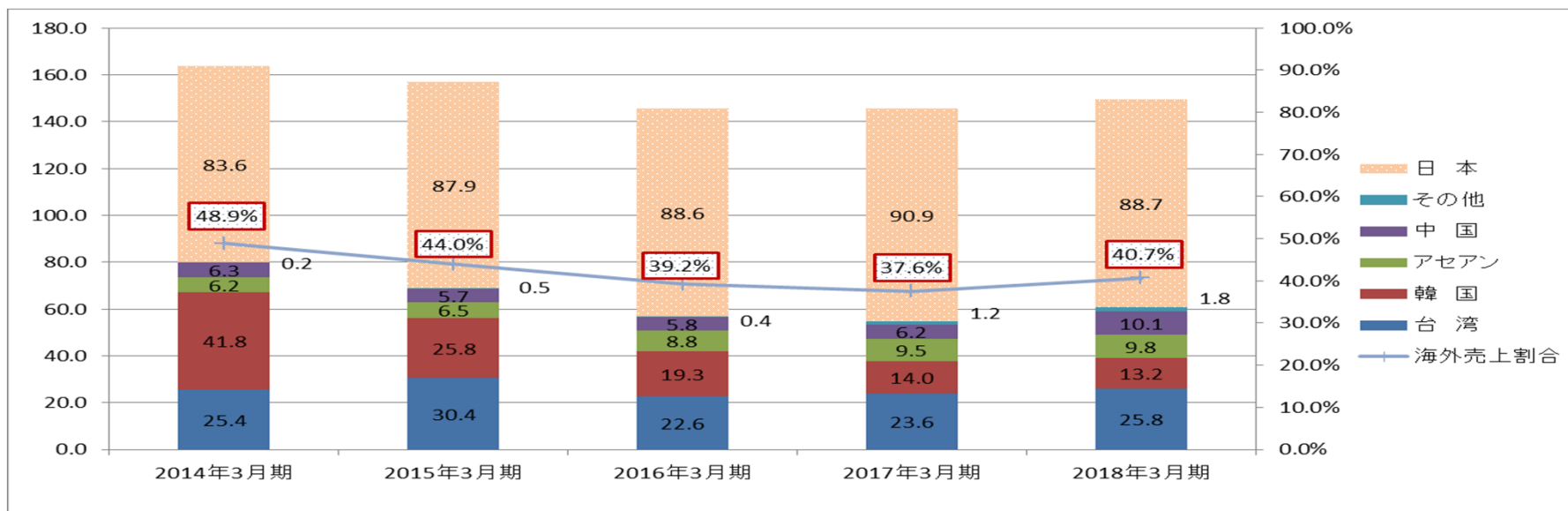
### <市場環境・販売状況>

- ・対応する鉄鋼業界は自動車関連の需要により生産が回復
- ・鉄鋼向け基礎薬剤の苛性ソーダが納入数量・販売単価アップ

# 地域別販売の状況

## 海外売上高推移

(単位:億円)



地域別売上高	2014年3月期	2015年3月期	2016年3月期	2017年3月期	2018年3月期
台湾	25.4	30.4	22.6	23.6	25.8
韓国	41.8	25.8	19.3	14.0	13.2
ASEAN	6.2	6.5	8.8	9.5	9.8
中国	6.3	5.7	5.8	6.2	10.1
その他	0.2	0.5	0.4	1.2	1.8
海外売上計	80.0	69.0	57.2	54.7	60.8
日本	83.6	87.9	88.6	90.9	88.7
売上総計	163.7	157.0	145.8	145.7	149.6

\* ASEAN...シンガポール タイ  
フィリピン 他

	2017年3月	2018年3月
1USD(計画)	120.00	105.00
1USD(実績)	108.60	110.97

- この資料に掲載されている業績見通し、その他今後の予測・戦略等に関わる情報は、本資料の作成時点において当社が合理的に入手可能な情報に基づき、通常予測し得る範囲内で為した判断に基づくものです。しかしながら現実には、通常予測し得ないような特別事情の発生または通常予測し得ないような結果の発生等により、本資料記載の業績見通しとは異なる結果を生じ得るリスクを含んでおります。
- 当社といたしましては、投資家の皆様にとって重要と考えられるような情報について、その積極的な開示に努めてまいります。本資料記載の業績見通しのみで全面的に依拠してご判断されることはくれぐれもお控えになられるようお願い致します。
- なお、いかなる目的であれ、当資料を無断で複製、または転送等をおこなわれぬようお願い致します。

ありがとうございました

2018年6月

石原ケミカル株式会社

(東証一部 4462)

URL: <http://www.unicon.co.jp>